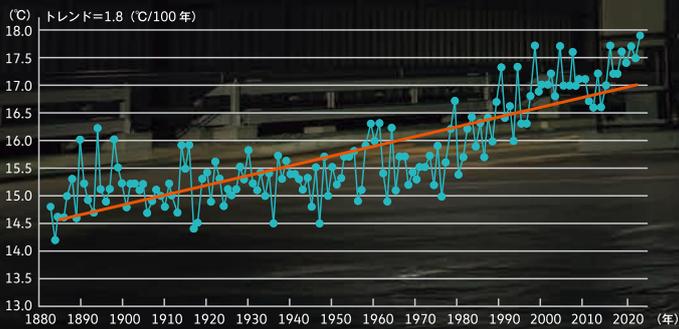




※写真：長府バイオマス発電所

《下関市の年平均気温の変化》



福岡管区気象台「九州・山口県のこれまでの気候の変化」より

環境政策課 ☎252-7115

ZERO CARBON CITY SHIMONOSEKI

ゼロカーボンシティしものせき

2050

ゼロカーボンはなぜ必要？

地球温暖化による気候変動は、私たちの生活に大きな影響を及ぼしています。近年、豪雨や猛暑など異常気象が増加し、農作物への被害や熱中症リスクの上昇など、身近な問題となっています。

この気候変動の主な原因は、私たちの日常生活や経済活動で排出される二酸化炭素（CO₂）です。このまま何の対策も取らなければ、さらに深刻な気候変動が予想されているため、2050年までに温室効果がスの排出を実質ゼロにすることを目指しています。私たちの暮らしを守るために、そして未来の子どもたちのために、私たち一人ひとりの取り組みが大切です。

ゼロカーボン：温室効果ガス排出量を森林などが吸収する量以下にすること

小学生が地球に 優しい生活に挑戦

夏休み期間中、市内の小中学生を対象に実施した「ゼロたんチャレンジシート」。約1600人の児童が、日常生活でできる地球温暖化対策に取り組みました。

参加した児童たちは、「誰もいない部屋の明かりを消す」「テレビを見ないときは消す」など環境に配慮した行動を実践。その成果として、特に優れたCO₂削減を達成した児童たちを表彰しました。

子どもたちの環境への意識と行動が、家族や地域へと広がり、脱炭素社会の実現への大きな一歩となることが期待されます。



ゼロたんチャレンジシート表彰式

特に優れた「CO₂削減」を達成した児童たちを表彰しました。

ゼロたんチャレンジ：市民・事業者・行政が一体となって、二酸化炭素(たん)素排出量実質0(ゼロ)を目指す取り組み

シンボルマークが 決定

ゼロカーボンシティしものせきの取り組みを表現した「ゼロたんチャレンジしものせき」シンボルマークが決定しました。全国から226作品の応募があり、外田彩乃さんの作品が優秀賞に選ばれました。



クジラが街を背負っている姿などを、丸みを帯びたフォルムで表現したデザイン。



優秀賞
ほかたあやの
外田彩乃さん

柔らかさを出しつつ、親しみやすいシンプルなデザインにしました。グラデーションには、CO₂の排出量と吸収量の均衡を保つという意味が込められています。マークを通して、環境問題に関心を持ってもらえたらうれしいです。私も、節電やごみの分別などはもちろん、化粧品などを買うときは環境に配慮した物を選ぶようになっています。

下関市が脱炭素先行地域に選定されました。

環境省が全国で100カ所の選定を目指す「脱炭素先行地域(民生部門の電力消費に伴うCO₂排出を2030年度までに実質ゼロにするモデル地域)」に、下関市が選定されました。第5回目となる今回の募集では、全国から46件の提案があり、9件が選定されています。選定された計画に沿って「あるかぼーと・唐戸エリア」を中心に、2030年度までに環境に優しいまちづくりを進めていきます。



脱炭素先行地域選定証授与式(11月15日)

主な取り組み

海響館・唐戸市場の ゼロカーボン化

地産地消の再エネ電力とカーボンオフセット都市ガスへの切り替えにより、水族館と卸売市場では日本初となる電力とガスの同時ゼロカーボン化を実現します。

主な取り組み

地域新電力会社 「海響みらい電力」

市内で発電した環境に優しい再エネ電力を、地域新電力会社「海響みらい電力」を通じて、エリア内の公共施設へ供給します。

主な取り組み

エコポイントの 導入

環境イベントへの参加や再エネ電力の利用、省エネ行動でエコポイントがたまる仕組みを導入します。

再エネ電力：太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱、大気中の熱その他の自然界に存する熱、バイオマスに由来して発電した電力
カーボンオフセット都市ガス：都市ガスの使用で発生するCO₂などの温室効果ガスを、別の場所でのCO₂削減・吸収分で埋め合わせることで、地球全体の温室効果ガス削減に貢献する都市ガス

みんなでゼロたんチャレンジ！

- 省エネ性能が高い家電を選ぼう
- 地球に優しい電力を選ぼう
- 太陽光パネルを付けて、再エネ電力をお家で作ろう
- 自家用車を控えて、公共交通機関を活用しよう
- 地元の食材を食べて、輸送エネルギーを減らそう
- できることから始めよう！

私たちは何ができるの？

ゼロカーボンの実現には、皆さん一人ひとりの行動が大切です。毎日の生活の中に、地球に優しいエネルギーを取り入れ、省エネを心掛けることが第一歩です。

地域の資源を活用し、エコな商品を選ぶことも効果的。私たちの「ゼロたんチャレンジ」の積み重ねが、地球環境を守り、持続可能な未来への大きな力となります。